

歴史と伝統文化のまち「成田」には、さまざまな分野で活躍した人や郷土の発展のために尽くした人がたくさんいます。先人たちの生き方からふるさと成田の歴史に触れ、未来へ大きく羽ばたく指標となれば幸いです。

## 第11回 新山莊輔

### 新山莊輔という人

新山莊輔は、安政3(1856)年、山口県に父白根正一、母英の三男として生まれた。幼少の頃から馬に触れ、馬の下をくぐって遊んでいたという。その際に蹴られてけがをしたという逸話が残るほど、馬好きであった。

明治9(1876)年、勸業寮所属農事修学場(内務省の農学教育機関。後の駒場農学校、現在の東京大学農学部)獣医科に入学。同13年、駒場農学校獣医科の第1回卒業生となった。また、この年に新山家の養子に入り、改姓した。

農学校卒業後、勸農局に入り、下総種蓄場の勤務となった。これにより、下総御料牧場長を辞任するまで約40年間、三里塚を中心として日本の畜産界における活躍が展開される。

明治17年5月、獣医学編さん委員を命じられ、東京大学獣医学部初代学部長の時重初熊と共に専門書を執筆した。同18年、明治天皇の側近であった藤波言忠ことただに随行し、諸外国の畜産技術とドイツの憲法学を習得した。欧州では、明治憲法制定のための基礎研究に当たっていた伊藤博文の助手を務めた。

その後、牧畜の視察や研究により最新の技術を取得し、明治21年4月に帰国後、主馬寮勤務を命じられた。



左／新山莊輔の銅像

右／獣医学実地教育創始記念碑(場所：いずれも三里塚記念公園内)

安政3年～昭和5年(1856～1930)

山口県に生まれる。明治13年勸農局に入り、下総種畜場の勤務となる。同21年第5代目の御料牧場長となり、大正11年までの37年間、日本の官民両面における畜産、特に産馬事業の発展に貢献した。また、三里塚の地域開発に尽力し、千葉県営鉄道に用地の無償貸し付けを行った。



### 下総御料牧場長に就任

明治21年、第5代宮内省下総御料牧場長となり、また、北海道の新冠にいかつよ牧場長も兼務することとなった。同23年、第3回勸業博覧会審査委員に任じられた。特に馬の鑑識力に優れたものがあり、しばしば審査長となったという。

莊輔は、多くの畜産関係諸団体の役員や、民間の牧場の顧問も務めた。下総御料牧場長としては、独立採算制を導入し、牧場経営の改善を図った。

明治44年、大正2(1913)年と2度にわたって、千葉県営鉄道に用地の無償貸し付けを行った。また、奨学金制度を設立し、三里塚地区の公共事業や教育にも力を注いだ。

このような莊輔の活躍には、国内外から勲章、褒章が贈られている。

昭和5(1930)年11月17日、74歳で永眠。三里塚御料牧場記念公園には、獣医学の実地教育が行われた記念碑と、平成16(2004)年に再建された莊輔の銅像が建っている。また、三里塚御料牧場記念館には、彫刻界で「馬の彫刻家」の異名で知られる池田勇八が制作した「馬上の新山氏」のブロンズ像が展示されている。

参考：『成田市史研究』30号「下総御料牧場第五代場長新山莊輔氏を語る」(新島新吾)、『下総御料牧場史』

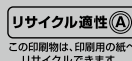
### 編集後記

高僧、武士、帝、陰陽師、不動明王。この関連がわかりますか。歌舞伎好きの人ならピンときたかもしれません。5月の歌舞伎座上演作品「雷神なるかみ不動北山櫻」で市川海老蔵さんが早替わりで演じる役です。本作は、市川宗家のお家芸・歌舞伎十八番でもあり、単独上演されることが多い人気演目3作が盛り込まれた3時間半に及ぶ大作。成田山新勝寺でお不動様のご利益を得た成田屋の当主が、得意の力強い荒事で観客を魅了することでしょう。

平成30年5月15日号 No.1363

成田市のホームページ

<http://www.city.narita.chiba.jp>



広報なりたは、グリーン購入法に基づく基本方針の判断基準を満たす用紙、誰にでも読みやすいUD(ユニバーサルデザイン)フォントを使用しています。